

日カタール国交樹立40周年

パール

海の宝石 展

このたび兵庫県立美術館では、日本とカタールの国交樹立40周年記念事業の一環として「パール 海の宝石」展を開催いたします。

本展は、真珠の魅力を科学的、歴史的、文化的側面から探るユニークな展覧会です。天然真珠の成り立ちやアラビア湾における真珠採取の歴史、また、2千年にわたるさまざまな文明で真珠がどのように珍重されてきたかを、写真や映像も交えて展示します。多くの日本初公開の展示品を含めた約200点を6つの章に分けてご紹介します。

カタール美術館庁の所蔵品を中心に、内外の所蔵家の貴重なコレクションもご紹介します。ウジェニー皇后、スペンサー伯爵夫人、ジャクリーン・ケネディ、マリリン・モンロー、エリザベス・テイラーといった、華やかな著名人がまとった優美な宝飾品も展示します。

神戸は長年、真珠貿易の拠点として栄えた地であり、本展がその神戸にて開催されることは、日本とカタールにとって大変意義深いことです。この記念すべき2012年に「海の宝石」の多面的な魅力に触れる絶好の機会となるでしょう。



アラビア湾の天然真珠

カタール美術館庁理事長 アル・マッヤーサ・ビント・ハマド・アル・サーニ妃殿下の本展へのメッセージ

「わたしたちは、2008年にイスラム芸術博物館を設立して以来、優れた文化財センターとして国内外にその名を知られるようになりました。『パール 海の宝石』展開催は、国を支えるために真珠の輸出に尽力した先祖たちへのオマージュであり、またカタール美術館庁の使命でもあります。本展をきっかけにカタールの歴史と文化をより深くご理解いただければ嬉しく思います。本展の大きな成功を祈るとともに、多くの方々にご覧いただき、カタールと日本の絆を深めていただきたいと願っております。」

2012（平成24）年7月28日（土）～10月14日（日）

【展覧会名】日カタール国交樹立40周年 パール 海の宝石 展

【会場】兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

【主催】兵庫県立美術館、カタール美術館庁、カタールパール展実行委員会、朝日新聞社

【後援】兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、社団法人日本真珠振興会、
日本真珠輸出組合、日本真珠輸出加工協同組合、パールシティー神戸協議会、
KOBE PEARL SOUQ、NPOひと粒の真珠

【協賛】カタールガス、カタール・ペトロリアム、カタール航空

【特別協力】NEO PEARL KOBE

【協力】株式会社ミキモト、アルビオンアート株式会社、有限会社ヒナタトレーディング

【企画協力】株式会社アールアンテル

【開館時間】午前10時～午後6時 入場は閉館の30分前まで（夜間開館はありません）

【休館日】月曜日 ただし9月17日（月・祝）、10月8日（月・祝）は開館、翌火曜日が休館

【観覧料】一般 1300（1100）円、大学生 900（700）円、高校生・65歳以上 650（550）
円、中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体割引料金。

※前売券の販売はありません。

※障害のある方とその介護の方1名は当日料金の半額（65歳以上を除く）。

※割引を受けられる方は、証明できるものをお持ちのうえ、会期中展覧会場入口で入場券をお買い求めください。

※本展覧会の観覧券でコレクション展Ⅱもご覧いただけます。

【交通案内】：阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分・

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分・

阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

JR三ノ宮駅南から神戸市バス、阪神バスにて約15分「県立美術館前」下車
地下駐車場（乗用車80台収容・有料）

※ご来館の際には、出来る限り公共交通機関をご利用下さい。

日カタール国交樹立 40 周年記念事業の一環

カタールは、アラビア半島の東部にあり、世界最大の液化天然ガス輸出国として経済発展を続ける国です。2012 年は、日本とカタールの国交樹立 40 周年の記念すべき年にあたり、両国では、さまざまな事業が開催されています。兵庫県立美術館では、その関連事業「カタール日本 2012 年」の一環として「パール 海の宝石」展を開催いたします。カタールにまつわる真珠の歴史、真珠が作られる自然の過程を映像を用いて紹介するとともに、世界の歴史の中で輝かしい変遷をたどった宝飾品としてのカタールが所蔵する作品を中心に紹介します。

日本とカタールの国交

1972 年 5 月の国交開始以来、カタールにとって日本は主要貿易相手国の一つであり、日本は約 15 年間にわたりカタールから LNG（液化天然ガス）を輸入しています。また、この 40 年間に両国の関係はますます緊密化されており、エネルギー部門だけでなく、教育、インフラストラクチャー、テクノロジー、そして文化といった分野にまで及んでいます。こうしたつながりは災害時の寛大な支援活動にも発展しており、2011 年前半、カタールは同年 3 月 11 に起きた東日本大震災・津波被災者への支援金として日本に 1 億米ドルを寄付しました。さらに、カタールは震災後の復興支援の一環として日本に対する LNG の供給量も増加させています。

真珠とは？

真珠は、人の手で成形されることも、磨かれることもない、つまり天然の美しさをそのまま形にした唯一の宝石です。5 千年以上にわたり、真珠は人々を魅了してきましたが、真珠については一般的にあまりよく知られておらず、その実体は謎に満ちたままです。

たとえば、どんな貝でも真珠をつくることができる——ということを知っている人は、あまり多くないでしょう。真珠は砂粒を核にしてできるのではない——と理解している人となると、さらに少数でしょう。では、真珠がどのようにしてできるのか——そのことを、本当にわかっている人はいるのでしょうか。本展では、何千年もの長きにわたり、カタールの歴史に寄与してきた、名もなき無数の「真珠採り」たちに敬意を表し、これらの問いに答えていきたいと思えます。

真珠の誕生

真珠のほとんどは、貝に寄生虫が入り込むことによって生まれます。寄生虫は貝の体内を移動しながら、貝殻となる物質を分泌する器官である「外套膜」を傷つけます。寄生虫によってこの外套膜から貝殻をつくる細胞が剥がれ、この剥がれた細胞が増殖し、袋状の包囊を形成して、外套膜の中央に真珠となる物質をつくり出します。これが真珠生成のメカニズムです。

しかしこれは極めて稀な現象です。アラビア湾では 1 粒の美しい真珠を見つけるために、約 2 千個の貝を開けねばならず、希少のピンク真珠を見つけるためには、カリブ海で 2 万個の巻貝を採取しなければなりません。天然真珠を追い求めたために、フィリピンやインドネシアでは真珠貝が絶滅の危機に瀕しています。

アラビア湾の真珠

アラビア湾では、7千年にわたり真珠の採取が行われてきました。バーレーンとカタールは、その中心地で、1930年代に真珠採取が衰退するまで、洋の東西を問わず、国の君主や支配者が手にした真珠は、すべてアラビア湾産だったのです。

アラビア湾の真珠は、イスラム諸国、ビザンチン（現トルコのイスタンブール）およびイタリアのヴェネツィアとの交易を通じて、ヨーロッパのキリスト教社会に広まりました。真珠は、高く評価され、王や王妃たちだけでなく、教会の神聖な遺宝箱や聖堂の宝物をも飾りました。

パナマ、メキシコ、ベネズエラ、そしてフィリピンからオーストラリアにかけての南東アジアで、新たな真珠貝の生息地が見つかったのは、16世紀になってからのことです。一方、アラビア湾では、1850年から1920年にかけて、真珠の黄金時代を迎えます。

19世紀、真珠の需要は高まり、アラビア湾の真珠採取は黄金時代を迎えます。その背景には、ヨーロッパ、アメリカに裕福な産業ブルジョワジーが出現し、またヨーロッパの貴族階級が豊かになったことが挙げられます。さらに、ムガールの支配から解き放たれたインドのマハラジャ（地方領主）たちが、莫大な富を手にしたことも一因です。

真珠の養殖

人工で真珠の生成が試みられるようになったのは、何世紀も前のことです。商家の長男として生まれた御木本幸吉（1858～1954）はそれに挑戦するため、1888年、アコヤガイの養殖に着手しました。1893年、御木本は小さな半球状の真珠層を貝殻の内側に密着させて、最初の「半円真珠」をつくり出しました。この半円真珠は商業的に大成功を収めました。御木本が真に求めていたものは「真円真珠」でした。その後、1916年に御木本は真円真珠の養殖に成功し、真珠養殖は産業としての確かな礎を築きました。こうして、真珠養殖は世界を制覇していきます。

神戸と真珠

第二次世界大戦後、神戸は真珠輸出の主要な拠点となりました。日本の真珠の販売業者は、国内および海外で生産された真珠の大半を仕入れ、神戸から世界中の市場に輸出しました。この背景には、真珠の生産をコントロールし、移植工程を秘密にして、日本の技術者たちの手に留めておくという戦略がありました。

今日でも真珠生産者の組織や組合は神戸を拠点とし、オークションを開催したり、日本のアコヤ真珠の品質に関する助言を行うなど、養殖真珠の普及につとめています。

今回は、神戸を中心とした真珠関係団体が展覧会を支援しています。

中国の淡水真珠

中国の養殖真珠は、耐久性が非常に強く、移植手術も極めて容易で、湖や水田に生息する淡水産二枚貝の中で生産されます。移植給与貝から採取した最大50個の外套膜切片が、ひとつの移植片受容貝に挿入されますが、核入れはされません。養殖場もまた非常に低コストで運営されています。結果として年間2千トン以上にもおよぶ真珠が生産され、世界の養殖真珠市場を不安定なものにしています。会場内では、大量の真珠を用いてこの現実を提示します。

関連事業

記念講演会「真珠の誕生と養殖真珠の世界」

8月26日（日）午後2時～3時30分

講師：赤松 蔚（日本真珠振興会参与、前(株)ミキモト真珠研究所所長）

ミュージアムホール（定員250名、聴講無料、要観覧券）

お問い合わせ先

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号 兵庫県立美術館内

【企画内容に関すること、取材・写真提供に関すること】

カタールパール展実行委員会 河崎、西村

tel: 090-9255-6855（実行委員会直通 10:00~18:00） fax: 078-262-0903

e-mail: qjpearl2012@gmail.com

広報用画像について

別表に掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の写真一覧、申込書をご使用ください

*本展は、日カタール国交樹立40周年を記念した「カタール日本2012年」の一環として、カタール美術館庁と兵庫県立美術館が共催するものです。

「カタール日本2012年」については以下のサイトをご覧ください。

<http://qatarjapan2012.com/online/jp/introduction>



【広報用画像一覧】



1. アラビア湾の天然真珠



2. 双頭の鷲のペンダントをつけた首飾り
18世紀 / モロッコ / カタール美術館所蔵



2. スペンサー伯爵夫人のティアラ
1890年頃 / 英国 / カタール美術館所蔵



4. 7つの梨型真珠をつけたダイヤモンドのティアラ
1830年頃 / ドイツ / カタール美術館所蔵



5. ツマトリソウの花を象ったティアラ
1900年頃 / アンリ・ヴヴェール制作 /
カタール美術館所蔵



6. アール・ヌーヴォーのティアラ
1905年頃 / ポール・リエナール制作 /
カタール美術館所蔵

日カタール国交樹立40周年

パール 海の宝石 展

カタールパール展実行委員会事務局 宛
 F A X (0 7 8) 2 6 2 - 0 9 0 3

ご希望の写真の番号に をつけてください。後日データにてお送りいたします。また、読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください(7月上旬以降送付可能)。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・その他(クレジット等)
1	アラビア湾の天然真珠
2	双頭の鷹のペンダントをつけた首飾り 18世紀 モロッコ (カタール美術館庁蔵)
3	スペンサー伯爵夫人のティアラ 1890年頃 英国 (カタール美術館庁蔵)
4	7つの梨型真珠をつけたダイヤモンドのティアラ 1830年頃 ドイツ (カタール美術館庁)
5	ツマトリソウの花を象ったティアラ 1900年頃 アンリ・ヴェヴェール制作 (カタール美術館庁)
6	アールヌーヴォーのティアラ 1905年頃 ポール・リエナール制作 (カタール美術館庁)

他にもPR用の画像を用意しております。ご希望の場合はご連絡下さい。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		F A X	
メールアドレス	@		
掲載・放送予定日			
写真到着日希望			
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります)	組	名	分希望

写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを、カタールパール展実行委員会事務局にお送りくださいますようお願い申し上げます。

本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

問い合わせ：カタールパール展実行委員会事務局 河崎、西村

651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 兵庫県立美術館内

tel: 090-9255-6855 (実行委員会直通 10:00~18:00) fax: 078-262-0903 e-mail: qjpearl2012@gmail.com